



絵本のまち板橋

絵本のまちを軸とした子育て・生きがいが交錯する持続可能都市
～産業・文化・環境の強みが未来をはぐくむまち“板橋”～

板橋区長 坂本 健

どこでも身近に、誰もがわかりやすく理解できる「絵本」。
これまではぐくんできた絵本文化を大切に生かす「絵本のまち“板橋”」は、
「誰一人取り残さない」SDGsの理念に通じる
ユニバーサルで誰でも参加できる持続可能なまちづくりです。

「絵本のまち」これまでの特徴的な取組

1981年以来、毎年、区立美術館で「ボローニャ国際絵本原画展」を開催し、絵本をアートとして採り上げる美術館として、先駆的な役割を果たしてきました。「ボローニャ国際絵本原画展」は世界の新人イラストレーターの登竜門としての役割も果たしています。

ボローニャから寄贈された絵本を中心に、世界約100か国、3万冊、70言語の絵本を所蔵する「いたばしボローニャ絵本館」では、世界の絵本を展示する「ボローニャ・ブックフェアinいたばし」や「いたばし国際絵本翻訳大賞」などのイベントを開催しています。「いたばし国際絵本翻訳大賞」は1994年から、外国の文化に触れ国際理解をはぐくむために英語とイタリア語の絵本の翻訳作品を募集するコンテストを実施しており、中学生部門も設けています。これまでに多くの受賞作品が絵本として出版されています。

区内に印刷製本業が集積しており、企業の協力を得て絵本づくりのワークショップなども開催しています。区民が絵本に親しむだけでなく、創作者活動の支援充実にも取り組んでいます。区民と創作者の視点に立った事業実施と相乗効果によって、絵本のまち“板橋”としてのブランド力向上を図っています。



区立美術館ボローニャ国際絵本原画展



いたばし国際絵本翻訳大賞受賞式

いたばしボローニャ絵本館を併設し、
緑と文化を象徴する図書館として生まれ変わった新しい中央図書館。
板橋区平和公園の豊かな緑に囲まれた環境の中で
「絵本のまち」を発信する拠点として展開していきます。

「絵本のまち」これからの発信拠点

2021年3月、新しい中央図書館が緑豊かな板橋区平和公園内で生まれ変わりました。「いたばしボローニャ絵本館」を併設し、友好都市交流協定を締結しているイタリア・ボローニャ市との友好の証として「ボローニャギャラリー」を中央に設置しています。「ボローニャギャラリー」は、ボローニャ市と共同で開催したデザインコンテストの最優秀賞作品をもとに設計しており、ユネスコ世界遺産に登録されたボローニャ市街の特徴である「ポルティコ（柱廊）」を表現しています。

新しい中央図書館は、カフェやテラス、公園とつながる広場や外周園路などによって公園と一体化した快適な空間を提供します。ホールなども活用しながら、読み聞かせ事業や絵本展示など「絵本のまち“板橋”」の発信拠点として展開していきます。

「絵本のまち」の発信拠点である新しい中央図書館を中心に、周辺地域や商店街とも連携しながら、にぎわいと交流による「経済」効果、生涯学習と読み聞かせによるシニア活動支援など「社会」効果、公園と一体化した空間を活用した「環境」効果を創出していきます。



豊かな緑に囲まれた環境で生まれ変わった中央図書館



ボローニャ市とのコンテストで採用したデザイン（ユネスコ世界遺産に登録されたポルティコを表現）をもとに設計したボローニャギャラリー

絵本のまちを軸とした子育て・生きがいが交錯する持続可能都市 ～産業・文化・環境の強みが未来をはぐくむまち“板橋”～

ボローニャ市との交流から生まれた国際絵本原画展、絵本館、翻訳大賞など「絵本のまち」づくりを軸に、産業・環境の資源を生かして相乗効果を創出し、官民学の連携によるSDGsのローカライズ（自分ごととして捉える）を統合的に展開することによって、子育てしやすく、誰もが生きがいをもって暮らせる持続可能な都市づくりを進めます。

経済

【課題】

- 20歳代後半から40歳代人口の転出超過解消
- 我がまちへの誇りの醸成

【目標】

- 交流人口の増加・若い世代の定住化
- 地域経済活性化

【取組】

- 絵本のまちプロジェクトの展開
- デジタル地域通貨いたばしPayの導入
- 産業資源・新技術の活用

8



9



17



社会

【課題】

- 超高齢社会・2050問題への対応
- 学び・子どもたちの情操教育の充実

【目標】

- シニア世代の活躍推進
- 生涯学習・学びの循環促進

【取組】

- 読み聞かせボランティア活動支援
- ユニバーサルデザイン・情操教育
- 環境体験施設の充実と運用促進

3



4



11



環境

【課題】

- 国際目標を踏まえた対策の充実
- 温室効果ガス排出量削減

【目標】

- 環境行動の促進
- 環境配慮の施設・公園づくり

【取組】

- 絵本リサイクル・電子化
- いたばし環境アクションポイント事業
- グリーンインフラの活用と環境配慮の施設・公園づくり

7



12



13



【経済面の取組】

絵本のまちプロジェクトの展開

イタリア・ボローニャ国際絵本原画展の開催や外国語絵本の蔵書、印刷製本業の集積など、絵本に関する資源を生かした取組を区全体で推進します。区民が絵本に親しむだけでなく、創作者活動の支援の充実に取り組むなど、区民と創作者の視点に立った事業実施と相乗効果によって、絵本のまちづくりを積極的に展開します。

デジタル地域通貨「いたばしPay（仮称）」の導入

地域経済の活性化と「新しい生活様式」に対応したキャッシュレス決済推進のため、板橋区商店街振興組合連合会と連携し、デジタル地域通貨「いたばしPay（仮称）」を導入します。初年度となる令和4年度はプレミアム付デジタル地域通貨を販売し、利用促進を図ります。また、子育て情報を発信する「いたばし子育てナビアプリ」などと連携することによって、子育て支援と活動による交流促進及び地域経済活性化の相乗効果を創出します。

産業資源・新技術の活用

板橋区は、光学・計測に関する技術力で世界をリードする株式会社トプコンと地域経済の発展に関する連携協定を締結しています。また、区の施設である「ものづくり研究開発センター（MIC）」に分室を置く理化学研究所とも連携協定を締結しているほか、AIやロボティクスなど新しい技術を社会的課題の解決につなげようと取り組んでいるベンチャー企業、学校が存在しています。

これらの資源を生かし、「絵本のまちづくり」やSDGsの理念である、誰もが参加できてわかりやすく、区の独自性や先駆性を打ち出しデザインすることで、地域経済の活性化と社会的課題の解決を支援していきます。



ボローニャ大学の学生がトプコンの機器を活用し、歴史的建築物の保存・再生する手法を研究



「工都光学展」（中央図書館ホール）

（株）トプコン、日本大学生産工学部との連携事業として、三次元測量技術やBIM（Building Information Modeling）技術を活用し、国史跡指定の火薬製造所跡の歴史的価値の保存と、将来の活用方法に関する研究を行っています。貴重な史跡を新技術で復元し、誰にでもわかりやすく伝える取組は「絵本のまち」・SDGsの理念に通ずるものです。

【社会面の取組】

読み聞かせボランティア活動支援

東京都健康長寿医療センターと連携し、絵本の読み聞かせに関するノウハウ・スキル（発声練習、選書、感情表現等）を習得するための講座及び受講後の活動を支援していきます。このことによって、地域におけるシニア世代の社会参画・社会貢献活動を支援し、認知症予防、フレイル・介護予防、ひいては社会保障費の抑制を図るとともに、子育てしやすい支え合う地域づくりを進めます。

ユニバーサルデザイン・情操教育の推進

障がいの有無や国籍を超えて、多様な立場の方が同じ絵本を楽しみ、共有できるような絵本のまちづくりを展開します。
また、絵本づくり子ども向けワークショップやイラストレーターを対象としたアトリエなどを開催し、教育普及の充実を図ります。
このほか、絵本を活用した防犯事業など、様々な施策における普及啓発などにおいて「絵本」のメリットを生かしたわかりやすく効果的な事業展開を図っていきます。

環境体験施設の充実と運用促進

2020年にリニューアルオープンした板橋こども動物園は緑の多い公園内に位置し、草屋根や壁面緑化等による環境負荷の軽減や馬糞等の堆肥化による循環型社会への貢献、動物とのふれあい・生物多様性を学ぶ教育など、SDGsを体現する施設となっています。施設案内のリーフレットや園内の案内サインも、子どもたちが動物に親しめるよう、誰もがイラストで理解できる、絵本をイメージしたデザインとしています。緑や自然・生き物にふれ、遊びながら環境について学ぶことができる施設運営・事業の充実を図り、子育てしやすいまちとしての魅力を高めていきます。
また、区立教育科学館では、これからの新しい科学技術を学ぶ場として機能の充実を図り、隣接する中央図書館との連携による学びの交流拠点として運用改善を図っていきます。



板橋こども動物園の草屋根



絵本をイメージしたポスター



ポニーの乗馬体験

【環境面の取組】

絵本リサイクル・電子化の推進

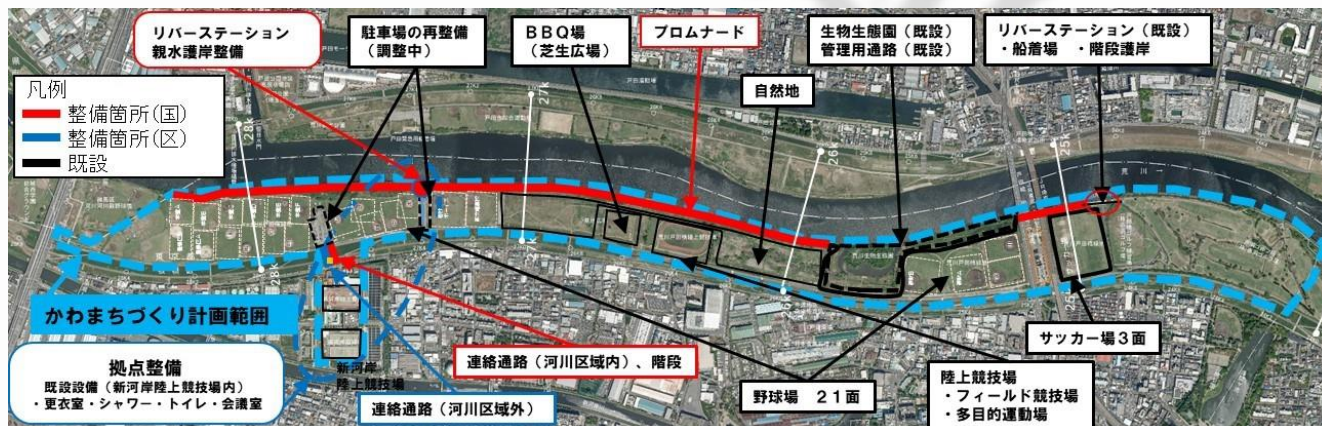
児童・生徒へ一人一台配備したパソコン端末を活用し、環境・SDGsの学習支援も含め、個別最適化された創造性をはぐくむスマートスクールプロジェクトを推進します。
絵本リサイクルの一環として、家庭で眠る絵本の寄贈受付キャンペーンを実施し、その絵本に対する思い等のメッセージも一緒に受け付け、展示の際に活用していきます。
区立図書館全11館に、電子書籍及び音楽配信型サービスを導入し、利用者の利便性の向上を図るとともに、誰一人取り残さない、読書・音楽を楽しめる環境を整備します。

いたばし環境アクションポイント事業

区民・事業者の電気・ガスのエネルギー使用量の削減割合に応じて、区内共通商品券と交換できるポイント還元事業を実施します。具体的な環境行動と連携したポイント獲得メニューを追加するなど、本事業のさらなる推進を図り、区民・事業者の行動変容を促します。
2021年度に導入予定のデジタル地域通貨「いたばしPay（仮称）」や絵本のまちプロジェクトとの連携を図ることで、経済・社会・環境面への波及効果を上げていきます。

グリーンインフラの活用と環境配慮の施設・公園づくり

区立美術館、中央図書館、板橋こども動物園などにおいては、公園内に立地する緑豊かな環境を生かしつつ、外断熱や高効率設備等の導入などによって、環境にも子どもたちにもやさしい施設・公園として親しまれています。今後予定している史跡公園・産業ミュージアム、新しい交通公園として再整備する板橋公園、かわまちづくり事業などグリーンインフラの活用によるまちづくりにおいても、ゼロカーボンシティにふさわしい環境に配慮した整備を進めていきます。



荒川河川敷のにぎわい創出と水害対策を行うかわまちづくり事業



板橋Cityマラソンでにぎわう荒川河川敷



官民学連携SDGsローカライズプロジェクト

【ポイント】

SDGsを自分ごとと捉え、学び・教えあい、行動につなげる取組

○区民意識意向調査結果：SDGs認知度

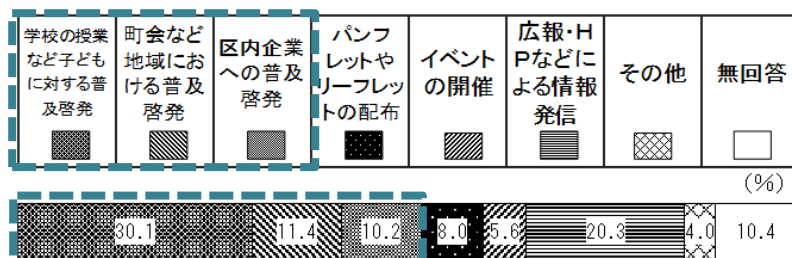


75.4%
『知っている』

- ・具体的な内容まで知っている 17.7%
- ・言葉の意味は知っている 31.3%
- ・言葉だけは聞いたことがあった 26.4%
- ・知らなかった（今回初めて聞いた） 22.6%

普及策により行動変容につなげる

○区民意識意向調査結果：SDGs普及策



「子ども・子育て世帯」「地域・高齢者」「企業」をメインターゲットとして、SDGsをローカライズし（自分ごととして捉え）行動する取組を展開していきます。

こども動物園の飼育や図書館の司書など、未来の担い手である子どもたちの育成やそのきっかづくりに取り組む大人まで、SDGsを実践するパートナーシップを広げていきます。

- 図書館、こども動物園、熱帯環境植物館などの子どもクラブ
- 森林・公園づくりボランティア
- 町会・自治会、地区環境行動委員会
- 幼稚園・区立小中学校PTA、青少年健全育成地区委員会
- 区内企業向けSDGs/ESG経営推進プロジェクト など

官民学が連携し、普及啓発・SDGsを学び・教えあう好循環を生み出す仕組みづくりに取り組みます。

- 健康長寿医療センター
- グリーンカレッジ（高齢者大学校）
- 区内大学
- イオンリテール（株）
- 山形県最上町
- 区立小中学校
- UDCTak（アーバンデザインセンター高島平） など

■ 統合的取組の概要②

SDGs 行動変容の促進

SDGs という言葉の認知度が高まっている中、今後はSDGs を自分ごととして捉え、目標を設定し、具体的な行動につなげていくことが重要と考えます。絵本のまちを軸としながら、未来を担う子どもたちや地域における行動変容を促していきます。



こども動物クラブの活動の様子

学び・教えあいの循環

学びの機会を創出することに加え、学んだ側が教える側になることで学びをアウトプットする機会を提供します。学んだ子どもたちが将来の職業を考えるきっかけになったり、大きくなって今度は子どもたちに教えようと思えるような取組を支援します。



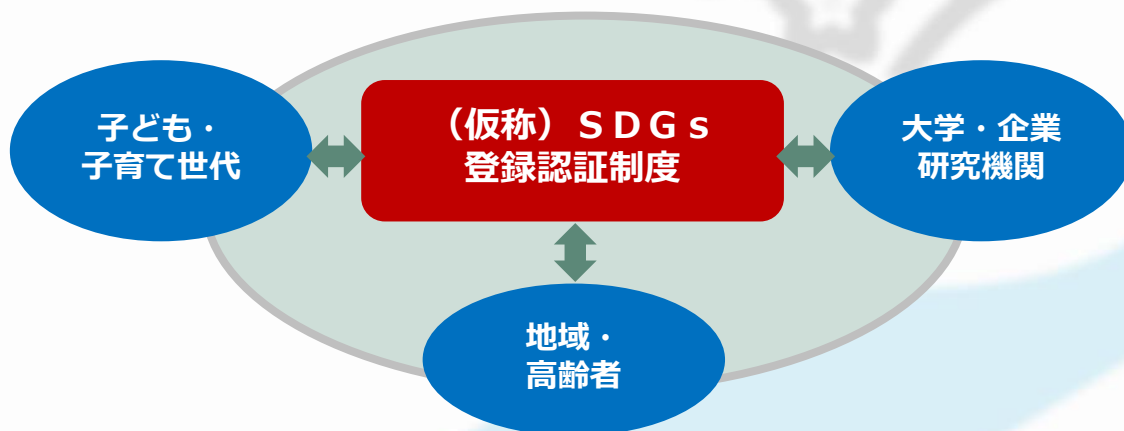
ファーストレゴリーグの様子

パートナーシップの加速

すでにパートナーシップを組んでいる主体はもとより、これまでは行政の縦割りで別々に活動しているボランティアや団体などを、誰もが参加できてわかりやすく伝える視点から横串を刺し、横断的なパートナーシップを広げていきます。



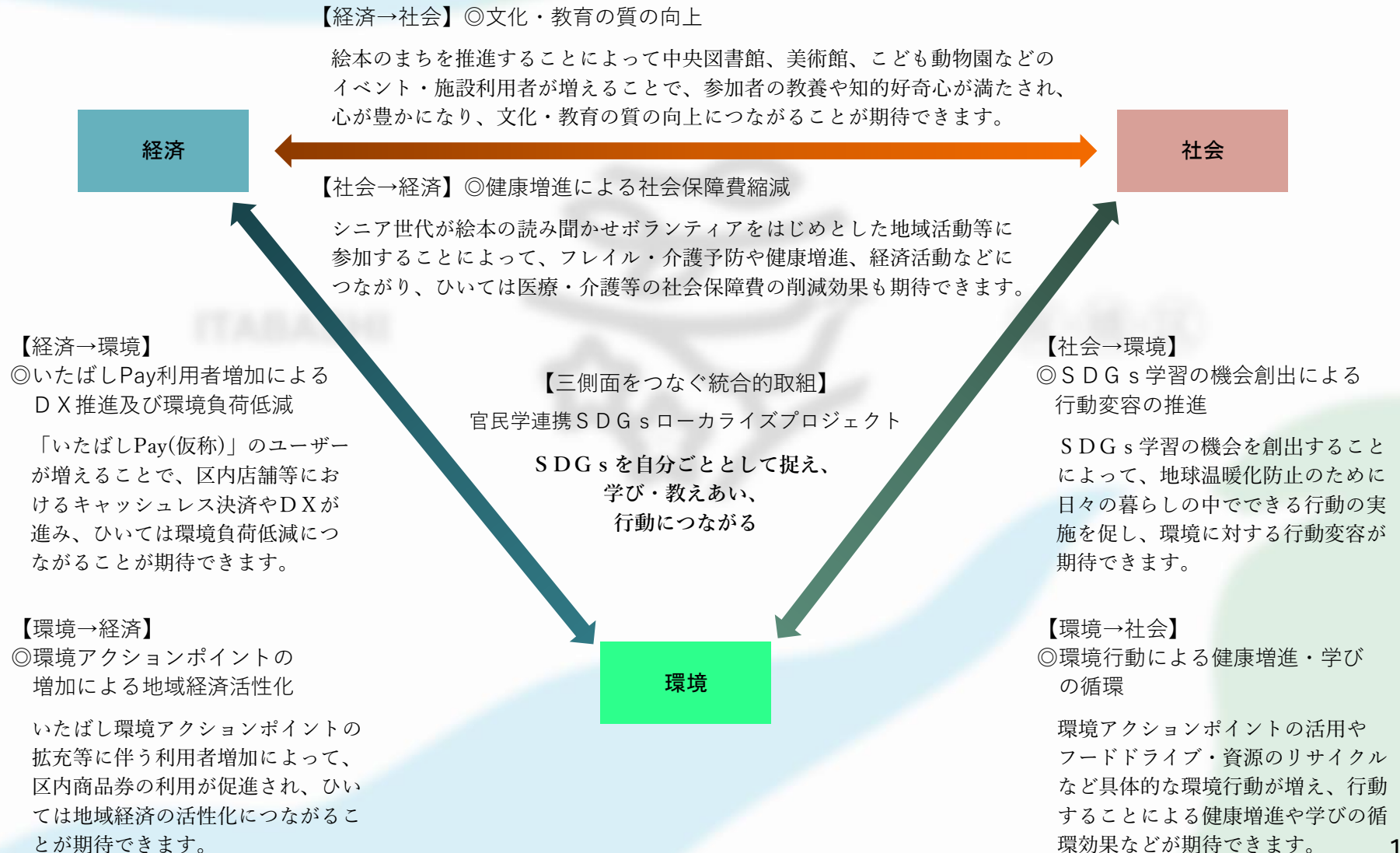
UDCTakによる防災カードゲームの様子



(仮称)SDGs登録認証制度は、最初の敷居は低く、未来を担う子どもたちへ気づきを与えたり、学んだことを職業や教えることに生かしたりするなど、誰もが参加できてわかりやすい、絵本のまちの理念に賛同するパートナーシップ制度として構築します。お互いの良い取組から学び、未来へつなげていく自主的な取組へ発展させていきます。今でも子どもたちや地域等によるボランティア活動が行われていますが、そういった団体を今後SDGsを共に実践していくパートナーとして、登録認証していきます。

■ 経済・社会・環境の三側面をつなぐ相乗効果

絵本のまちを軸とした子育て・生きがいが交錯する持続可能な都市づくりは、SDG sを自分ごととして捉え、学び・教えあい、行動につながり、経済・社会・環境それぞれの側面へ相乗効果が期待できます。



■ 自律的好循環に向けて

行動変容の促進、学び・教えあいの循環、パートナーシップの加速が
自律的に好循環を生み出すことによって、「絵本のまち」の理念である、
誰もが参加でき、わかりやすく理解できる地域人材の育成を図ります。

板橋区には200を超える町会・自治会があり、18地区にそれぞれ
青少年健全育成地区委員会や地区環境行動委員会が設置されてい
ます。このほか、幼稚園・小中学校それぞれのPTA、中央図書
館・教育科学館・美術館・こども動物園・熱帯環境植物館・エコ
ポリスセンターといった各施設ではぐくんできた事業やパート
ナーシップの強みを最大限生かし、それぞれの取組をSDGsに
ローカライズしていく普及啓発活動を官民学が連携して展開し、
各主体において自主的な活動がさらに広がるよう支援します。

SDGsを「自分ごと」として捉え、積極的に取り組んでいる団
体等を「(仮称)SDGs登録・認証制度」によって区のパート
ナーとして認定し、その取組をホームページなどで紹介すること
によって、区の強みである「パートナーシップ」の好循環を生み
出します。登録認証制度の連携・課題解決の取組を拡く紹介する
ことでさらにパートナーシップの連携を加速させ、「絵本のまち」
の理念である「誰もが参加でき、わかりやすく理解できる」
行動の促進や地域人材の育成を図ります。

